

「平成27年度 第1回大分市子ども・子育て会議」で出された主な意見

- 1 日 時 平成27年8月11日(木) 13:30～15:30
 2 場 所 コンパルホール 3階 多目的ホール
 3 参加者 委員18名参加(欠席委員1名)

4 委員からの主な意見と事務局回答

【議事（1）会議の運営について】

委員からの質問・意見	事務局回答
特になし	

【議事（2）すくすく大分っ子プランの概要について】

委員からの質問・意見	事務局回答
特になし	

【議事（3）26年度実績値と27年度取組み状況について】

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>(委員)</p> <p>「子育て支援中小企業表彰事業」という事業があり、「県との差別化を図るために表彰基準の見直しを行う」と書かれているが、ここに記載されている事業内容をどのようなイメージを持って記載しているのか教えていただきたい。</p> <p>《保育士等の人材確保について》</p> <p>(委員)</p> <p>「幼稚園教諭や保育士等の人材確保」について、事業内容の大分県保育士・保育所支援センターの実績等はどのようなものか教えていただきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>次世代育成支援後期行動計画に基づく一般事業主行動計画を策定して大分労働局に提出している300人以下の企業を対象に募集をし、応募があった企業に対しては選考委員会を開催し選考したうえで表彰を行う事業である。</p> <p>また、副賞として市の庁舎内にポスター、そして公用車にマグネットポスターを広告として掲載している。</p> <p>(事務局)</p> <p>大分県保育士・保育所支援センターについては大分県が行っている事業である。大分県保育連合会に委託しており、内容としては保育所へのマッチング事業として就労の斡旋を行っている。実績については、具体的な数値は覚えていないが、効果はあまりあがっていないと聞いている。</p>

<p>また、ハローワークとはどのような連携を取っているか教えていただきたい。</p> <p>(委員) 「九州管内の保育士等養成校でセミナーを開催する」とありますが、これは早急に取組んでほしいと思いますので、今の状況と今後の方針を教えてください。</p> <p>《待機児童の解消について》</p> <p>(委員) 地区ごとに待機児童の数も異なると思いますが、今後の取り組みの部分で保育所等の新設による定員の拡大とありますが、これは待機児童の多い地区の場合のみということになるのでしょうか。</p> <p>《乳児家庭全戸訪問について》</p> <p>(委員) 乳児家庭全戸訪問について、課題の部分の実態はいかがでしょうか。</p> <p>《児童育成クラブについて》</p> <p>(委員) 事業内容と今後の取組みの部分に定員拡大のために事業者への補助制度を創設、また、民間事</p>	<p>ハローワークとの連携については、具体的には潜在保育士を保育士として現場に復帰していただけるよう、保育所業務を体験してもらい、保育所への復帰の第一歩を図ってもらうようしている。そのために連携して大分市の公立保育所にて座学や実習を行ってまいりたい。</p> <p>(事務局) 人材確保については喫緊の課題である。大分市では今年度から県内の養成校3校に福岡、北九州などでの就職セミナーに各保育所等に同行してもらい取り組みをしてもらおうと考えている。</p> <p>(事務局) 待機児童の多い地域を中心に保育所の新設や施設整備を行なってまいりたいと考えている。</p> <p>(事務局) 乳児家庭全戸訪問事業ですが、記載しているように4か月の間に95.4%の訪問ができている。しかしながら、長期の入院や長期の里帰りによって4か月の間に訪問できない方がいる。実際は例えば福岡や別府に帰省しているなど所在がわかっているため、その時点で他都市に訪問依頼を出す。あるいは、長期の入院の場合は、帰ってきた時点で面接を行うなど、何らかの方法で直接お会いできるようにしており、その結果として98.8%の方に訪問をしている。残りの0.2%については、健康診断や他課との連携の中で所在が把握ができるのでH26年度では全く所在がわからないという方はいなかった。</p> <p>(事務局) 民間事業者の活用としては、現在、社会福祉法人あるいは学校法人等を対象に今後経営をしていただける団体を探している。なお、育成クラブについては、放課後に</p>
---	---

<p>業者の活用とあるが具体的にはどうするのか教えていただきたい。</p> <p>(委員) 面積基準について、大分市の場合は49%が基準に達していない状況ですが今後の対応を教えてください。</p> <p>《放課後支援コーディネーター事業について》</p> <p>(委員) 進捗状況はいかがでしょう。</p>	<p>子どもが通う場所であり保護者がいないことから安全面に配慮しなければいけない。そのような状況も踏まえて慎重に選定をしていかなければいけないと考えている。</p> <p>(事務局) 面積基準については、1人あたり1.65㎡必要ということで平成26年度に条例化したものである。すくすく大分っ子プランについても、その条例を踏まえて作成している。施設整備が必要なクラブがあるので、すくすく大分っ子プランに基づいて計画的に進めていきたいと考えている。</p> <p>(事務局) 現在、元校長先生1名、臨床心理士1名、計2名の嘱託職員を新たに配置し、児童育成クラブを巡回しながら特別に配慮を要するお子さんや発達障がいのお子さんへの対応に困惑している指導員に対して助言をするという活動を行っている。特に夏休み期間に育成クラブを集中的に巡回を行い、全クラブの状況を把握するとともに、特に指導を重点的に行う必要があるクラブについては2・3日継続して指導に行くという取り組みをしている。</p>
---	---

【議事（4）意見交換】大分市の子ども、子育てについて思うこと※委員の意見を抜粋

<p>委員からの意見</p> <p>(委員) ・虐待、貧困などの家庭を含めての「保護者支援」に取り組んでいく必要がある。 ・地域における保育所や幼稚園に入所していない親子への支援が必要である。</p> <p>(委員) ・幼児教育の質の向上が重要であるが、園の職員や子ども達の質の向上を図りたい。</p> <p>(委員) ・地域や学校と連携し、子どもとの繋がりを大切にしながら携帯電話、スマートフォン、いじめなどの問題解決を図りたい。</p> <p>(委員) ・子ども達のメディアとの付き合い方に問題があると考えている。</p>

(委員)

・「地域で子どもを育てる」ことは重要であり、「子どもを守るネットワーク会議」のように地域の関係者が集る場を多く設けてほしい。

(委員)

・認可外保育園が認可を受ける中で、各園ごとに異なる感染症への考え方を統一させるための一律の基準が必要だと考えている。

(委員)

・最近、学校行事への保護者の協力が多くなっており、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が強くなったのではないかと考えている。

・学校の授業参観等の行事に父親の参加が増えており、職場等での啓発の結果だと思う。

・小中一貫教育について、子ども達の先を見通した教育ができると感じ、また保護者や子ども達が中一ギャップなく過ごせているのではないかと感じております。

(委員)

・子ども・子育て支援新制度が始まるにあたり、保育施設の指導員の質の向上が大事になるため、研修等を開催する中で磨いてほしいと思う。

(委員)

・PTAのあり方や親子のあり方、家庭・地域・学校との連携についての問題提起、また親主体の教育をしたい。

(委員)

・幼児教育は親の教育でもあるため、「保護者支援」として大分市と協力し、どのような方針で幼児教育を行なっていくべきなのかを統一することが大事だと考えている。

(委員)

子育ては障がい児、健常児問わず母親一人ではできないものであり、周りのみんなの力で、子ども達に何が必要か話せる場があればいいと考えている。

(委員)

児童育成クラブの今後に期待をしたい。また、児童育成クラブの所管は教育委員会がいいのではないかと考えている。さらに、1年生から6年生まで一体での受入ができるといい。

(委員)

子育ての経験や企業経営者の立場、また海外生活の経験から大分市の教育等について考えたい。

(委員)

地域での最初の出会いの場として、また教育現場等のパイプ役としてサロンを実施したい。

(委員)

発達障がい等で見過ごされていた場合、社会に出る時期では手遅れになっていることがある。特にグレーゾーンの若者達がそうなった原因は、体験活動や経験が少ないことだと感じる。実際に経験が足りない若

者がニートに陥りやすいことから、「体験活動」を若者の自立支援に取り入れてほしい。

(委員)

スマートフォンによるトラブルなど、いじめの問題について学校だけでなく、保護者としても考えていかなければいけない。